

平成27年度事業計画書

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

I. 事業計画概要

公益財団法人美術工芸振興佐藤基金として3年が経過しました。この間、世界情勢は益々混迷の度合いを深めています。このような時だからこそ、国際間の相互理解の促進が必要だと思います。私たちは、美術工芸を通じて国際間の相互理解の推進と我が国文化の発展に寄与する、という目的に則り、様々な文化に触れることで、お互いの理解が促進されるような展覧会や助成事業を行います。

II. 事業毎の計画

1. 美術工芸等に関する資料の収集、保存、調査研究、展示及びそれらの資料を活用した事業

(1) 石洞美術館

a. 展示計画

石洞美術館の展覧会は、原則として年3回の企画展を実施しています。本年度は、下記の展覧会を開催します。

「沖縄のやきもの展」

沖縄は、その地理的な環境から、独特の文化を育んできました。やきものもその一つで、沖縄のやきものは独特の器形や色使い、素朴で暖かみがありながら、力強さも兼ね備えた、大変魅力的な器です。石洞美術館の主要な収蔵品を蒐集した佐藤千壽は、たびたび沖縄を訪れて、沖縄のやきものを蒐集しました。

一方、多くの陶芸家が、沖縄の健やかなやきもの制作に魅了され、沖縄でやきものを焼造しています。

本展では、沖縄のやきものを中心に、濱田庄司やバーナード・リーチなど、沖縄で焼造した陶芸作家の作品、那覇市街や首里城の絵図面など、館蔵の沖縄に関わる作品により、沖縄の工芸品の魅力を紹介します。

「日本のやきもの展」

日本で初めてやきものが焼かれたのは、今から一万数千年前のことであり、この間、朝鮮半島や中国のやきもの影響を受けながら、連綿とやきものが焼

かれてきました。

石洞美術館では、縄文土器から現代の作家のものまでのやきものを所蔵しておりますが、今まで通時的な展観を行ったことがありませんでした。

本展では、縄文土器から現代のものまで、通時的に作品を並べることにより、日本のやきものの歴史を知るとともにその魅力に触れて頂きたいと思います。

「スペインの陶器展（仮称）」

スペインのやきもの制作は、イスラム統治時代に花開き、現在まで、明るく華やかな陶器が作り続けられています。イスラム統治時代のやきものはイスパノモレスクと呼ばれ、金属器の光沢を目指したラスター彩が特徴的です。また、一方では、黒っぽくなる粘土を使用するため、多くの器は錫を呈色材として白く化粧を施し、その上に青や緑、黄色など原色に近い色使いで、花や動物などを大らかに描いています。ヨーロッパの器ではありますが、イギリスやドイツのやきものとは異なり、素朴で暖かみのある器です。

石洞美術館は、日本有数のイスパノモレスクのコレクションを有しており、本展では、館蔵のイスパノモレスクを中心に、スペイン陶器の魅力を紹介します。

| | |
|------------------------|-------------|
| 「土屋コレクション マイセン展 PartⅢ」 | 4月1日～4月5日 |
| 「沖縄のやきもの展」 | 4月25日～8月9日 |
| 「日本のやきもの展」 | 9月5日～12月20日 |
| 「スペインの陶器展（仮称）」 | 1月16日～4月3日 |
| 「第32回淡水翁賞受賞作品展示」 | 3月後半～4月3日 |

b. 広報活動

昨年度に引き続き「ぐるっとパス」に参加し、美術館・博物館に興味を持っている人が来館するきっかけにします。

c. 資料の収集

魅力有る展示を行っていくため、資料収集方針にしたがって、今年度も新たな資料の収集を行います。

2. 美術工芸等の創作活動、調査研究及び普及活動に対する助成及び表彰事業

(1) 助成事業

本年度は下記の研究に対し助成を行います。

- a. ハーバード大学東アジア言語文化学科留学生への研究助成
- b. 村上夏希 イスラーム陶器の生産と技法に関する文化財科学的研究
- c. 瀧本みわ 4世紀のイベリア半島における北アフリカのモザイク工房に関する研究：その遠征活動と図像伝播
- d. 佐々木 類 “Illuminating glass in architecture: The residue of space” (建築(空間)におけるガラスの発光：空間の痕跡)
- e. 森 一郎 焼き締め陶・備前焼の美・力について
- f. 柳 新一 (仮称) 柳宗理アジア巡回展

(2) 表彰事業

淡水翁賞 (若手金作家奨励賞)

若手金作家奨励のための淡水翁賞は、今年度で32回目を迎えます。

第32回淡水翁賞の募集は9月頃開始、12月25日をもって締め切りとし、選考の上、3月に授賞式を行います。